



<p>②医療体制の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族から安心感を持たれている常勤医師の配置について、継続・維持に努める。</li> <li>・常勤医師、非常勤医師による定期的な居室巡回の工夫を図るとともに、内容の充実を努める。</li> <li>・看取り期の対応を充実・強化するために利用者、家族と主治医等との十分な意思疎通を促進する。</li> </ul>	<p>②従前の常勤医師、非常勤医師等の配置体制を維持し、看護・医療の充実を図っている。</p> <p>定期的な居室巡回等医療体制の強化を図った。</p> <p>八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会(八高連)への加入を継続し、救急対応に対し一層迅速で安全な救急搬送体制と受け入れ先となる病院等との連携を強化した。</p> <p>5名について、家族と主治医等との意思疎通を図りながら看取り介護を実施した。</p>
<p>③防災体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫を増やし、備蓄品の整備を図る。</li> <li>・防火管理委員会を計画的に開催し、組織的な防災体制の充実を図る。</li> <li>・定期的な防災訓練、定期点検を実施する。</li> </ul>	<p>③防災倉庫を増やし、備蓄品の充実を図った。</p> <p>防火管理委員会は、年間実施計画を策定し計画どおり実施した。</p> <p>日々の点検のほか専門業者による定期的な消防設備点検等を実施し、非常照明バッテリー交換等、不具合箇所について修理・改善等、すみやかに対応した。</p> <p>災害防災訓練については、水害から命を守るため必要となる行動と知識に対する理解を身に付けるため、マニュアルを作成し訓練を行った。</p> <p>また、法人事業継続計画(BCP)に沿った園内のマニュアル整備に取り組んだ。</p>
<p>④事故、感染症等の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的にリスク回避を行うためのリスクマネジメントの実践を行う。</li> <li>・事故防止委員会にて、ヒヤリハット及び事故報告書を分析し対策を行い事故防止に努める。</li> <li>・外部機関の研修に参加するとともに、それらの内容を踏まえた園内研修の充実を図る。</li> </ul>	<p>④事故防止委員会において、ヒヤリハット報告書について書式の見直しを図り、回収数を増やすことで事故発生リスクを把握し、対策を講じるための準備を整えた。また、事故報告書からは、29年度の分析から行っているマニュアルの強化及び理学療法士の指導による介護技術の標準化に努めた。</p> <p>感染防止委員会において、手洗い・うがいの徹底、手指消毒の使用を強化した。インフルエンザ流行期には、面会の制限を実施し感染予防の体制を図った。6月からは、ノロウイルス感染症及び食中毒の発生防止を万全に行うため、一定の期間、面会時の食品持ち込みを制限した。</p> <p>外部研修や職員教育研修の開催によって、より多くの職員が事故、感染症等を理解することが出来る環境を作った。</p>
<p>⑤虐待の防止及び早期発見・拘束ゼロの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳保持、虐待防止、身体拘束防止についての委員会を定期開催し、身体拘束ゼロ、虐待ゼロを継続するため、外部研修への参加、園内研修の実施、身体的拘束等適正化のための指針の整備を行う。</li> </ul>	<p>⑤尊厳保持・虐待・拘束防止委員会においては、最新情報収集に努めた。また、外部研修に参加し、その内容を含め関係法令、通知、参考資料、園内マニュアル・手順書等を盛り込んだ教則本の更新に取り組んだ。園内研修では、全職員が受講できるよう工夫をし全員参加の研修となった。</p> <p>30年度より「身体的拘束等廃止委員会」を3カ月に1回開催し、身体的拘束等の適正化のための指針を整備したが、計画どおり身体拘束ゼロ、虐待ゼロを職員全員に周知徹底を図った。</p>

<p>⑥建物・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向け、大規模修繕の具体的検討を進める。</li> <li>・安全・良好な建物設備を維持するため、計画的な改修を実施する。</li> <li>・定期的な建物・設備の点検を実施し、必要に応じて修繕を実施する。</li> </ul>	<p>⑥建物・設備においては、定期的な点検を計画どおり実施し、安全・良好な環境を維持しているが、老朽化による屋根や外壁等の修繕箇所が数多くあり、今後の改修について計画的に進めるため、市に対してその要望を伝え、ヒヤリングや市の園舎調査を受けた。その結果、3月27日に内報を受け28日に協議書の提出を求められた。他に診療所に雨漏りが発生し、緊急性があったため、からまつ保育園後児保育室と費用按分のもと、屋根の防水改修工事を行った。</p>
--	---

(2) 社会・利用者ニーズへの的確な対応

<p>①個別サービス計画について組織的な見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡の発生予防のための管理や排泄に介護を要する利用者への支援に対する評価の実施を検討する。</li> <li>・利用者・家族の要望を組織的かつ的確に把握する。</li> <li>・各部署との連携強化を図り、介護度3以上の入所を踏まえた創意と工夫を図り高品質なサービスの向上に努める。</li> <li>・パソコンを活用し、情報を共有化し、業務の効率化を図る。</li> <li>・サービス実施後の評価を適切に行い、その後のサービス計画に反映させる。</li> </ul>	<p>①個別サービス計画について、組織的な見直しを図り、機能訓練計画及び栄養計画をより理解しやすい書式を作成し、同意のうえサービス提供を実施した。パソコン入所者管理システムを活用し、データに基づいた個別サービス計画への評価・反映を効率的に実施した。</p>
<p>②利用者・家族の意見、要望の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスプランについて十分な説明を行い、利用者・家族の同意が得られるようにする。</li> <li>・毎月1回、園長と利用者との定期的な懇談会をフロア毎に開催し、利用者の意見等を把握する。</li> <li>・多くの家族が来園する園行事の機会をとらえ、家族と園との定期的な懇談会を開催し、意見交換を深める。</li> <li>・年に1回以上のアンケート調査を実施し、意見、要望の把握に努める。</li> </ul>	<p>②サービス計画を計画的に利用者、家族の要望を踏まえPDCAサイクルで行った。また、サービス計画の内容は十分な説明のもと同意を得ることに努めた。毎月定例的に園長と利用者との懇談会を開催し、意見要望の把握に努めた。お花見会及び敬老会において、家族懇談会を開催し意見交換を深めた。ホームページを随時更新した。園だより「ふれあい」については、よりご家族に安心いただける内容に充実させ、多くの施設情報を適宜、家族にもお知らせし、家族からの意見要望の把握にも努めた。</p>
<p>③サービス計画に基づくサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排せつ、入浴等の個別サービスを実施し、向上を図る。</li> <li>・医療、健康管理、機能訓練サービスを実施し、向上を図る。</li> <li>・個人の状態や要望に即した食事形態や、季節感を取り入れた行事食、選択食の回数を増やし、よりきめ細かな、快適な食事サービスを実施する。</li> </ul>	<p>③利用者・家族等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の施設サービス計画をもとに、利用者に合わせてサービス提供を実施した。施設サービス計画に沿った健康管理・機能訓練を実施した。栄養ケアマネジメントを実施し、個々の状態に応じた食事提供、季節感を取り入れる行事食、選択食や旬の素材を取り入れる等のきめ細かい食事サービスを提供することに努めた。</p>

<p>④各種行事等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づき、お花見会(4月7日(土)実施予定)、夏祭り(7月27日(金)実施予定)、敬老会(9月15日(土)実施予定)等の全体行事を実施する。</li> <li>・利用者の要望を取り入れ、また、状況に合わせたグループ活動の活性化を図る。</li> <li>・レクリエーション活動として、風船バレーボールやクラブ活動等を行い地域との交流を図る。</li> </ul>	<p>④4月「お花見会」5月「衣料販売」6月「アニマルセラピー」7月「法人合同夏祭り」唐松町会子ども神輿9月「敬老会」10月「チャリティバザー」「合同防災訓練」「アニマルセラピー」「衣料販売」11月「移動動物園」12月「クリスマス忘年会」「餅つき会」1月「新年会」2月「節分会」等の行事のほか、毎月定期的に風船バレー、クラブ活動、喫茶、世代間交流(園児、学童、小学生)、生花、書道、カラオケ、民謡、手工芸や買い物の日等利用者の楽しみが図られた。</p> <p>また、各グループでの活動を積極的に行い充実を図った。</p>
--	--

### (3) 事業の安定的・効率的な運営

<p>①経営感覚の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入の増を意識し稼働率向上に繋げるための創意工夫を図り、また、園全体で経費の減を意識した行動に努める。</li> <li>・月々の稼働率を分析し、幹部会で評価し、更に経営の充実に努める。</li> <li>・優良な施設経営等のノウハウを取得し、施設経営への活用を図る。</li> <li>・将来の改築を見通した資金計画を検討する。</li> <li>・短期入所の更なる促進を図る。</li> </ul>	<p>①月1回の幹部会において稼働率の分析、改善等検討し、また、予測をしながら経営への意識を高めた。</p> <p>前年度同様入所者の入院などが続いていたが、退所から入所をスムーズにはほぼ定員人数が欠けることなく満床に近づけることができた。短期入所については、定員20名と合わせ空床分の利用促進を図り、平均ベット稼働が101.1%と計画を達成することができた。</p> <p>概ね予算に基づいた、収支バランスを確保することができた。</p> <p>長・短期入所の稼働率を向上させるため、市内全域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に、施設の見学会を開催した。介護支援専門員との繋がりを強化し、今後の稼働率向上に向けて基盤を安定させることを課題としている。</p>
<p>②職員の確保・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己申告書を活用したキャリアパスの構築を行い、職員の確保・定着を図ることを目的に職員一人ひとりが「やる気と誇り」を持って、働きやすい職場づくりに努める。</li> <li>・職員の確保・育成などのための介護職員初任者研修を年1回行い、講師には全施設からの協力を得る。</li> <li>・第二青陽園と協力し、福祉専門学校や高等学校等との連携強化を図る。また、新卒者向け採用説明会の開催を行い、人材確保を図る。</li> </ul>	<p>②自己申告書による個々の希望する将来を基本とし、それらに必要なスキルの向上と青陽園が望むスキルを職員と共有し、キャリアアップをとおして自己実現が可能となる基盤作りに努めた。定期的な面談を行い、理解と認識がされているかの確認を同時に行った。</p> <p>介護職員初任者研修においては、受講希望者が6名となり、計画どおり職員の講師協力を得て開講が行われ、受講者全員が資格取得し、その内1名を採用に繋がった。</p> <p>第二青陽園と協力し、来年度の新卒採用に向けて学校訪問先を広げ連携強化を図った。連携校で行われるガイダンスに出向き、就職に向けた説明を行うことが出来た。</p>

### (4) 職員の知識・技術の向上と職場の活性化

<p>①職員の知識・技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能訓練士の指導を受け、手順書、チェック表を基に介護援助の基本を標準化し、評価、改善を繰り返しながら技術の向上に努めることを継続する。</li> <li>・マニュアル、手順書の周知、徹底を図る。</li> <li>・施設内において定期的な研修を実施する。</li> <li>・外部研修への積極的な参加とその成果を活用する。</li> <li>・アクティブ福祉イン東京への発表を行う。</li> <li>・資格要件加算等に必要な各種資格を取得する際の支援体制の充実を図る。</li> <li>・他施設等への見学を積極的に促進する。</li> </ul>	<p>①機能訓練士の指導のもと、介護技術の標準化に向け技術指導を継続した。</p> <p>マニュアル委員会を中心に、マニュアル、手順書の見直しを図り、周知及び徹底を図った。</p> <p>園内研修を月1回開催し、講師に医師、理学療法士、外部講師を多く含み内容をより充実させた。</p> <p>外部研修においても、積極的に参加している。</p> <p>アクティブ福祉in東京においては、6名の職員が参加した。</p> <p>各種資格取得に向けた支援を実施した。</p>
---	---

<p>②職場の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスを取り込み、職員の将来像と目標の共有をし、職員が理解、認識されている環境の中で仕事のやりがいを見出し、いけるよう努める。</li> <li>・「働きやすい職場づくり委員会」を定期的 に開催し、年休取得推進、業務改善や福祉機器の導入等を実現に向けて検討する。</li> <li>・メンタルヘルス対策の充実、強化を図る。</li> <li>・IT技術等の活用を図ることにより、業務の効率化を図る。</li> </ul>	<p>②キャリアパスの検討をするために、職員との面談を行った。</p> <p>働きやすい職場づくり委員会に置いて、年休の積極的な推進及び介護課が中心となり業務改善の検討を行った。</p> <p>職員のメンタルヘルス対策を行った。</p> <p>IT技術の活用を図ることにより、情報の共有化が図られ業務の効率化に努めた。</p>
--	---

<p>③業務の簡素化、効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分掌、責任と権限を明確にし、実施する。</li> <li>・会議の見直しと効率的な活用と運営を図る。</li> </ul>	<p>③各委員会を定期的 に開催し、業務の見直しを通して簡素化、効率化の検討に努めた。</p>
--	---

(5) 地域、後援会との連携

<p>①地域等連携事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二青陽園及び地域包括支援センター川口と共催し「認知症カフェ・さくら」を引き続き実施し、地域住民の語り場となるよう実施する。</li> <li>・「介護予防健康体操教室」は今年度より青陽園及び第二青陽園の共催とし、より一層の地域の介護予防に取り組むことを継続する。</li> <li>・園の全体行事、法人主催の夏祭り(7月27日(金)実施予定)、チャリティバザー(10月6日(土)実施予定)、防災訓練(10月24日(水)実施予定)等をとおして地域、後援会や保育園児・学童との交流を図る。</li> <li>・広報誌「ふれあい」(年3回、6月、10月、2月発行予定)やホームページの更新等により、適切な情報提供に努める。</li> <li>・青陽ホールの積極的な貸し出しを行う。</li> <li>・五町会との懇談会(6月15日(金)実施予定)に参加し、園の情報提供及び地域の情報収集に努める。</li> </ul>	<p>①「認知症カフェ」を9回実施し、多数の地域住民が参加した。</p> <p>介護予防教室については、8回開催することができ順調に新しい参加者が増えている。</p> <p>法人合同夏祭りでは、地域及び後援会と交流を図った。さらに、唐松町会子ども神輿やからまつ学童の訪問があり、地域との交流を積極的に行い、園の全体行事及び園内行事は計画どおり実施した。</p> <p>青陽ホールの貸し出し情報を広報誌「ふれあい」や法人の「東京玉葉会だより」に掲載し、多くの地域のみなさんに利用いただくことができた。</p> <p>五町会との懇談会に参加し、園の情報提供及び地域の情報収集に努めた。</p>
--	--

<p>②ボランティアの積極的な受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの受け入れを積極的に行い、利用者の生活や活動の活性化を図る。</li> </ul>	<p>②ボランティアコーディネーター2名を配置し、引き続きボランティアを積極的に受け入れ、レクリエーション活動の活性化を図った。その結果、レクリエーションなどのボランティア以外にも、生活に密着した活動を行うボランティアを充実させることができた。今後もボランティア数が増えることが見込まれるため、受け入れ体制を見直し、より受け入れ・活動しやすい環境を整えた。</p>
--	--

<p>③高齢者関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都、八王子市との情報交換等を積極的に行う。</li> <li>・東京都社会福祉協議会、八王子市社会福祉協議会等との連携を図る。</li> <li>・東社協高齢者施設福祉部会、八王子施設長会に参加し、他施設との情報交換を行う。</li> <li>・地域の介護施設等との勉強会や情報交換を行う。</li> </ul>	<p>③介護保険制度の動向などに関して情報収集に努め、必要に応じて都や八王子市などと連携を行った。</p> <p>東社協高齢者福祉部会 経営検討部会、八王子施設長会等に参加し、他施設との情報交換を行った。</p> <p>アクティブ福祉in東京の発表に向け市内の特養施設と合同プレ発表会に参加した。</p> <p>他の特養施設と意見・情報交換をすることができた。</p>
--	--